



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ推進ニュース — 介護ウェーブの “Big Wave” をおこそう! —

2009年も引き続き取り組みを強め、介護ウェーブのうねりを起こしていこう!

北九州市の介護保険料引き下げへ 介護報酬改善を強く要望 健和会・北九州市社会保障推進協議会が市当局と懇談(福岡・健和会)



北九州市当局は12月18日、2009年度の介護保険料を引き下げる方向で検討していることを明らかにしました。同日行われた北九州市社会保障推進協議会・健和会との懇談で三谷茂男介護保険課長は、介護保険財政の余剰金の取り扱いについて、「来期の保険料に反映させることになる」とし、一定の保険料引き下げを示唆しました。また、特養ホームの待機者数について「全体で3,709人、うち在宅が約

1,000人で、残りは病院、施設の在院・在所者」であると説明し、依然として特養ホームなど施設入所の要求に応え切れていないことが明らかになりました。そのほか、介護報酬が介護従事者に世間並みの給与を保障できる水準ではない実態については「認識している」とし、国や関係機関に働きかけていくことを表明しました。介護保険制度が適切に運用できないケースで老人福祉法による措置を活用するという点については、「用意がある」とし、個別の検討を行う構えであることを明らかにしました。

懇談会には北九州市当局から三谷課長含め2人、社保協側から17人（ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、ケアハウス、訪問看護ステーションなど）が参加。事前に提出した設問への当局側からの文書回答をもとに意見交換しました。

北九州市の第4期介護保険事業計画は1月中旬に「計画素案」が明らかにされる予定で、保険料、施設整備の具体的な数字が示され、その後パブリックコメント実施後、3月10日前後に最終的な計画が決定される見込みです。当局は、1月～2月に市民・関係団体への説明会を開催し、意見聴取を行う方針です。なお、療養病床の老人保健施設への転換見込みについて当局は、「参酌標準の枠外なので事業計画の前提にはなっていない」とし、北九州市として明確な転換方針は示しませんでした。第4期の施設整備計画では、特養100床、グループホーム18人分を第5期計画を前倒しして実施するとしています。

【社保協側からの発言の要旨は次の通り】

▼今富（健和会本部）：介護保険制度全般の現状と問題点。介護保険事業所の経営状況と今後の展望。居宅介護支援の報酬が不当に低すぎる問題。介護従事者の給与水準が低すぎる問題。「介護従事者の給与水準の北九州市職員の給与水準との比較して公開すべき」と要請。

▼平井（大手町居宅支援事業所）：介護予防事業がケアマネジャーにとって大きな負担となっている問題。「安い報酬で膨大な手間」という実態の改善を要望。

▼近藤（戸畑ヘルパーステーション）：介護報酬が低すぎて安定的なヘルパーの体制を維持するのがむずかしい状況。このままでは若いヘルパーがほとんどいなくなるのではないかと危惧。訪問介護の制限が多すぎて使いづらい問題。

▼入江（訪問看護ステーション・のぞみ）：病院が早期退院を促進している中で、医療ケアの必要な訪問看護が介護保険の枠組みでなかなかやりにくい状況。24時間態勢といっても個人のがんばりに頼っている状況。在宅重視という方向だが、今のような訪問看護の位置づけではむずかしい。

▼内田（ケアハウスとばた）：ケアハウスの場合、特養などに比べて人員配置が厚くできない。もう少し何とかならないか。グループホームも同様。介護の人材確保が困難になっている。入れ替わりも多く、悪循環となっている。市としても人材確保にはもっと努力して頂きたい。

（健和会介護ウェーブ推進ニュース第2号 2008.12.25より）

